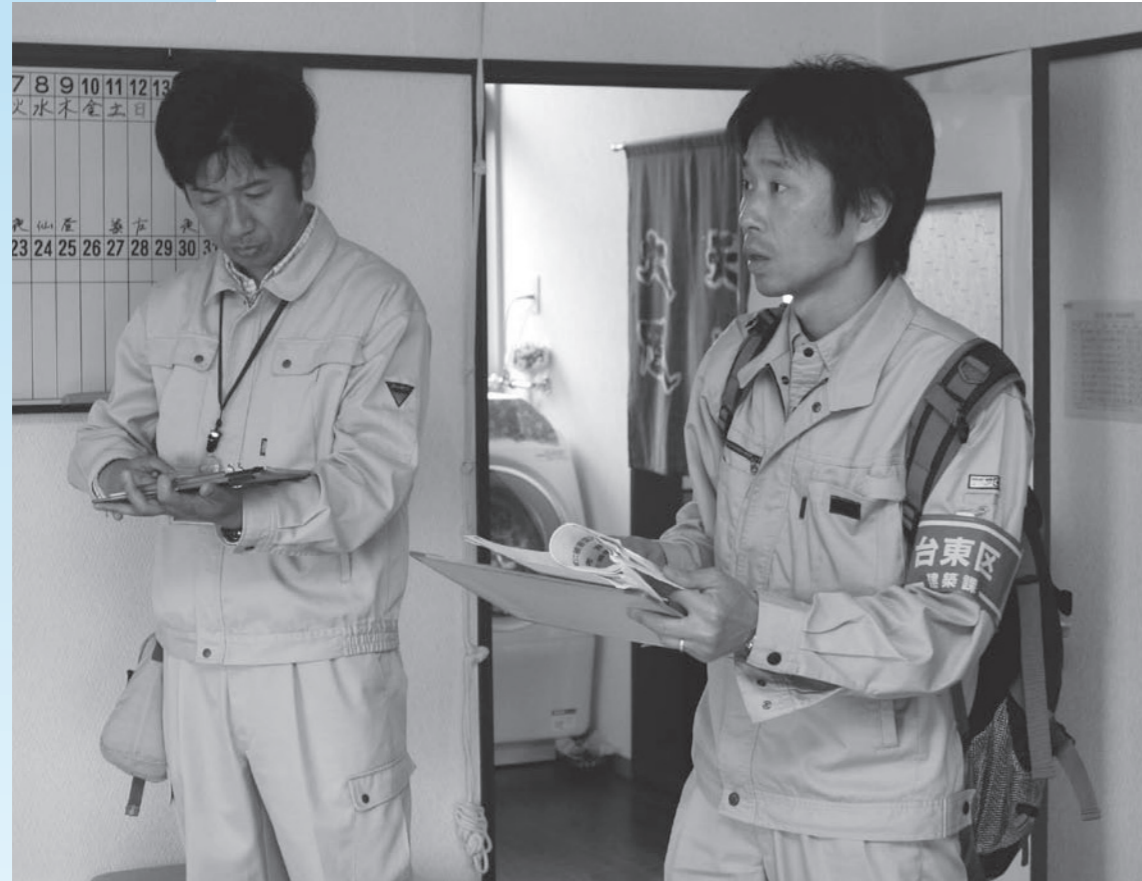


響け 復興の槌音

～復旧、そして復興へ向かって～



大崎市では、さまざまな人が「復興」というテーマのもとに、懸命に活動を続けています。

各種被災者支援制度を受けるときに必要な「り災証明書」の申請は7,000件を超え、3カ月以上が過ぎた今も、姉妹都市の東京都台東区の職員の皆さんから協力をいただき、家屋調査を進めています（写真参照）。

東日本大震災から立ち上がる、まちの姿をお伝えします。

INTERVIEW

復興への思い

支えてくれる人たちのため
震災の被害を感じさせない
極上の酒を造りたい

新澤醸造店 新澤 巖夫さん（三本木地域）



東日本大震災により、明治六年の創業時から使っている酒蔵が大きな被害を受け、修復不可能となり、やむを得ず取り壊すことになりました。また、八万本あった酒瓶も、三万本以上が割れてしまいました。

今年、酒の出来がよく、お客さんからも高い評価をいただいたので、残念でなりません。

新しいスタートを切るため、今すぐ酒蔵を取り壊して新しく建て直すべきか、移転するべきか…。どちらにしろ、時間はかかるし、多額の資金が必要となります。かといって、このままでは、震災前に作っていた酒の在庫も、夏には底をつきます。

考え抜いた末、新澤醸造店の酒を待っていてくれる人のため、出荷が途切れてはいけないと思い、新しい蔵を建てる前にもう一度この蔵で酒造りをしようと決心しました。現在は、七月から皆さんに届けられるように仕込みをしています。

今回の震災では、さまざまな人から支えられていることをあらためて実感しました。

全国の同業者たちは、ボランティアとして、酒造りを手伝いに来てくれました。



▲思い入れのある蔵で酒造りに励む新澤巖夫さん。

なじみのお客さんからは「震災に負けずお酒造りを続けてください」などといった励ましの電話やメールが寄せられました。

新澤醸造店の酒「伯楽星」が縁で交流を深めた、英国のJUMIバレエコーディネーター事務所の代表・橋立珠美さんは、心配して私の元へ駆けつけてくれました。昨年、初めて大崎市で行われたバレエコンクール「伯楽星カップ」は、今年中止になりましたが、来年は開催します。

支えてくれる皆さんのために、必ず酒蔵を再生させ、震災で被害があったことを少しも感じさせない極上の酒を造りたい。今まで、造り手がやりたくてもできなかった夢のようなことをしたいとも思っています。苦労した分、みんな嬉しさをわかちあえるように、蔵人たちが力を合わせ震災を乗り越えていきます。